



自分のなかに燃えているものを抱えていく。

火の国 阿蘇の
恵みのブランド

灸 azen A s o C i t y

十九歳の若者は阿蘇を離れ東京に出て、さらにハリウッドに向かった。
ミュージシャンとして生きていこうと決心したからだ。

アメリカで六年間暮らした。気が遠くなるほどの刺激を受けたし、
思い屈するどん底の日々も味わった。

二十五歳で阿蘇に帰ってくる。が、夢あきらめてしょんぼり、ではない。
いま、精肉店カルキフーズ三代目主人である軽木欣弥さんは、
こだわりの肉を扱う肉屋として、

身体のコに燃えている「音楽」を封印はしない。

情熱が自分の駆動力になっているのを自覚しているからだ。

「その熱い気持ちを生まれ故郷にも等しく注ぎます」

坊中散策隊という地域づくり団体で積極的に活動する。

信仰の山・阿蘇には僧が住む坊舎、

山伏が結ぶ庵が三十六坊五十二庵もあった。

生まれ育ったその地・坊中の探索は、

自分を探求することと少し似ている。

坊中散策隊 軽木欣弥

あるがまま、という貴さ。

人と自然が共作する阿蘇。